

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	My Stepジュニア谷六教室		
○保護者評価実施期間	R 8年2月1日		R 8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	R 8年2月1日		R 8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R 8年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性に応じた支援や個別支援計画に基づいた支援が適切に行われていること。	個別支援計画の作成時には、児童発達支援管理責任者だけでなく職員間で情報共有を行い、子どもの状況や保護者のニーズを踏まえた支援内容を検討している。また日々の支援の記録や振り返りを通して、継続的な支援の見直しを行っている。	今後もアセスメントやモニタリングを丁寧に行い、子どもの発達状況や環境の変化に応じた支援内容の見直しを継続していく。
2	保護者との情報共有や相談対応が比較的良好に行われており、信頼関係の構築につながっていること。	日々の支援の様子や子どもの状況について保護者と共有する機会を設け、必要に応じて面談や相談対応を行っている。また、チラシ配布等を通じて事業所の活動内容を発信している。	情報発信の方法についてSNS等の活用も含めて検討し、保護者にとって分かりやすい形で継続的に情報提供を行っている。
3	地域との関わりを意識した支援の充実に向けて検討を行っていること。	子どもの発達状況や支援内容を踏まえ、地域との関わりや交流の機会について職員間で検討しながら支援の在り方を考えている。	今後は地域資源や関係機関との連携を進めながら、子どもが地域社会と関わる機会の充実について検討していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	研修機会の不足等により、職員の資質向上に関する取組が十分とは言えない部分がある。	業務の状況等により、社内研修の機会が減少していることが要因として考えられる。	定期的な職員研修の機会を設けるとともに、外部研修への参加や職員間での情報共有を通して、支援の質の向上を図る。
2	活動内容や使用する教材・教具が固定化しつつある点。	日々の支援の中で同様の活動内容が継続しやすく、教材の選択肢が限られてしまうことがある。	子どもの発達段階や興味関心に応じて活動内容や教材の見直しを行い、より多様な支援内容となるよう工夫していく。
3	保護者同士の交流の機会が十分とは言えない点。	父母の会や保護者交流の場の設定が十分に行われていないことが要因と考えられる。	保護者のニーズを踏まえながら、保護者同士が交流できる機会や情報交換の場の設定について検討していく。